

# 說苑

## 蠶業教育と私見

鹿兒島縣立伊佐農林學校

櫻井吉利

### 一、緒言

標題を蠶業教育と私見などと大袈裟なものを掲げ、未だ斯業に携はつて日淺く、且つ經驗の少ない私が充分に説き得ない事は勿論、こんな大問題に對して私の如き者が意見を吐くなどとは以ての外とは思ふが、私共養蠶科出して斯業に携つて居る者を昭和二年十二月現在の同窓會員名簿に據つて見るも卒業生四百二十名の約三分の一たる百四十二名に昇り是れに製糸科、紡績科出して教員生活をして居らるゝ方を加ふれば、優に百六十名を超える状態にてかなり多くの同窓諸兄が是れに従事されて居らるゝのでは等同窓の方々の御參考にも相成るものあらば、望外の幸福と思ひ平素感じた蠶業教育の一端を本誌の餘白を藉りて書く事にしたのである。

### 二、蠶業教育の目標

全國を通じて蠶業學校、蠶糸學校、或は農蠶學校等の名稱を持つた學校は凡て六十一校あるが、此の外農學校、農林學校、實業學校、畜産學校等の名稱を有するものが皆で二百六十六校ある。校名は勿論其の學校の内容を現はすものであるから相當の考慮は要するものだが、私の考へでは敢て各々異つた固有の名稱を附する必要は無いと思ふ、蠶業學校であらうが、農學校であらうが、農林學校だらうが、其の名稱は何でもよい。

一体蠶業學校だから蠶業が主で充分に覚えさせたい、他科は従だから大抵でよい。農學校だから農業が主で稻作を充分覚えさせれば、他は従だから一通りでよいとか云ふ考へは、餘り名稱に捉はれた偏見である。

此處で一寸書きたい事は、現在の實業教育は餘りに技術其のものに捉はれ、又世間の人も技術其のものに眼を注ぎ過ぎる。農學校の卒業生でありながら稻一つ作れぬ、大根一本甘く出来ぬ。蠶業學校の卒業生でありながら蠶一つ飼へないいつも腐らしてばかり居る。一体學校で何を教へたんだらう、又學校で何をして居るんだらうと非難する。此の考へ方は學校の先生も悪いし、社會も悪い。恐らく學校を出たから稻も甘く作れる、大根も上手に出来る、蠶業學校を出たから蠶も腐らせぬ、立派な繭もとれる、蠶業のことは何でも御座れ知らぬことは無いといふ事の出来る者があらうか。又それだけの自信を持たして卒業生を出す學校があらうか。私も専門學校で別にサボつた譯ではないが、卒業した當時蠶業試験所で蠶を飼つたが、その時の心配は一通ではなかつた。然し年々飼育し研究して居る間に可成納得した様な氣がする。私は親にして若し子供に養蠶をやらせたいと考へるならば、蠶業學校へは入學せしめぬ。世間態がいくら悪くも必ず蠶種製造者の如き、或は傳習所の如き單に技術其のものを教へ習ふ處を選ぶであらう。何も親の虚榮心の満足のため、子供迄犠牲として中等教育を施させぬともよい。單に技術其のものを習得せしむるには、反つて昔の丁稚、小僧の方が何でも出来る。工業學校出よりは大工の弟子になつた者の方が立派な家も戸棚も出来るのだ。そうすると私が子供を農學校へ入れたとするなら、必ず其處に技術以外の或ものを求めて居るのでは無からうか。恐らく今日實業學校へ出して居らるゝ生徒の父兄の考へも、單に其の技術のみを要求されて居らるゝであらうか。若し技術のみを求めらるゝ父兄ありとせば、澤山のお金を掛けて結局御希望に叶ふ様な子供が出来ないのだから、早く退校させて宜しく丁稚なり小僧なりに入れらるゝ方が、機を得たものと思はれる。若し然らずとするならば、卒業して蠶が充分飼へなくとも又稻が充分作れなくとも叱られたり、學校を非難したりしないがよい。又學校の先生も悲觀しないがよい、即ち技術以外に何等か其處に或る教育の結果を齎して卒業させたならば、是れに優る良教師はないのである。是れに優る親切な學校はな

いのである。親としてもこんなよい先生はない、こんなよい學校はないと必ず感謝するに違ひない。

大部外道へそれたが即ち此處が私の學校の名稱は何でもよいと云ふことになるのだ。私は現在の農業に關するいくつかの名稱を異にしたものを凡て統一して單に農學校と云ひたい。或は極端かもしれぬが中學校、女學校、工業學校、商業學校、農業學校等を全部中等學校と共通の名稱にしてもよいと思ふ。聞く處に依れば來年度より中學校へ各學年を通じて基本科目に作業科を一週二時間宛組入れてあり、尙三四五年の第一種へは三―六時間の實業科目を増加科目として、制定されてある、此の作業科二時間を加へたと云ふことは、現今の中學校教育の最大欠陥である或何ものかを補はんとした主旨なる事は、既に御承知の通りである。斯くなり來る時は或る點に關して實業學校も中學校も段々接近したもになつて來たのであるから、何も夫々名稱を異にしなくともよいではなからうか。勿論名稱は統一しても其の内容は變化しなくともよい、農學校でも養蠶地ならば養蠶を大にやり、林業地であるならば林業を大にやつてよい、そしてそれが其の學校の特色としても決して校名に反するとは言はれぬ。宜しくその地方の状況に應じて内容を整へ、學生の教育と地方産業の發達に資せねばならぬ。小なる學校の名稱如何のみに捉はれて其の教育の大目的を忘れてはならぬ。

わけのぼる麓の道は多けれど

同じ高嶺の月を見ん

蠶業教育も農業教育の一部だから、農業教育の目標が決して農業に關する技術のみを教へるのが全部でないと同じ様に蠶業教育も單に技術のみに流れて、大切な教育の目的を没却せぬ様、心掛ければならぬ。偶々蠶業の力をかりて農業教育をするものだといふ氣持を以て、生徒の教育に従事せねば所謂アヤツリ人形の如く、踊はをどるが、たましいの抜けたものが出來はしないだらうか。

### 三、蠶業教育と設備

農業學校ばかりではないが、凡て學校の研究會があれば必ず設備費の増額を其の筋に建議するの案云々の建議案の出な

い時はない。又博物の先生は澤山の標本を欲しがり、物理の先生は澤山の機械を欲しがり、化学の先生は色々の薬品を充分に備へたがる。それは何れも必要に相違ない、又あるに越したことは無い、設備も充分なら學生も充分勉強が出来て教育的によいにはきまつて居る。そうかと云つて設備のよいものが、必ずしもよい學校とは斷言が出来ぬ。不十分な設備な學校でも、教育的効果を擧げて居るものが尠くない。寧ろ私の様な者は設備があまりよければ、それを充分に使ふ事が出来ないから少い學校の方がよいと思つて居る。金を掛けて標本を澤山に買つて居る學校が、標本戸棚や、陳列室を見ると塵まみれで餘り教室にも運ばれず、利用された機會の少い様なが多い。模型の蠶蛆蠅の羽根の片方がとれて居つても、其の儘に放つて置き、桑の標本瓶のアルコールが蒸發して半減して居つても補充する氣も無い様な教員にいくら備品費を興へても何にもならぬ。教育ばかりではないが凡て物事はどれだけの設備がなければ、何が出来ないといふ人は、いくら設備をしてやつても出来ぬ人である。やる氣さへある人なら一鎊の標本費がなくとも自分で立派な標本が出来、然もそれが塵にならずによく、活用されるから生徒のために反つてよく、嶋津製作所あたりの高い標本を塵だらけにして置くよりは、教育的價値が大きいのだ。其の縣の財政の状態により、其の學校の状態により、設備の點に於て必ず不満の方も多からうが此の精神を以て教育に當られたならば、何も不平不満はなからうと思ふ。寧ろ自分の足らざるに感付かれるものと思ふ。私はこれに就て斯ふ云ふ經驗を持つた事がある、蠶室がなくとも養蠶は出来るものであると云ふ事を。どこの學校にも應接室とか標本室とかがあるから是等のものを片付けてその一隅で飼つても一匁や二匁の飼育は出来る、又よく利用する氣さへあれば教室の後や、廊下の一部でも二匁や三匁は飼つて生徒に教へるには充分である。近頃の如く野外育が盛んになつて來ると、今に家がなくとも蠶は飼へるかも知れぬ。蠶室が建つて貰へないから養蠶實習が出来ないなどと云ふ事は嘘と云つてもよい。蠶室がなくとも廊下で出来るだけ育蠶して居れば、いくら蠶業の嫌ひな校長でも、遂に蠶室を造つてくれるし、縣でも認めてくれる。然るに養蠶實習をやるから蠶室を是非作つてくれなぞと校長に申し込む位馬鹿な事は無い、やらないで作つてくれと云つても校長は納得出来ない、それよりは要求せず

やつて居れば校長も見ては居られぬから反つて自己を恥じて何を置いても先づ蠶室を作つてくれることは明かだ、又こ  
う云ふ心掛けなら校長とも衝突しないで圓滑に蠶業教育に従事することが出来ようと思ふ。

又桑園も廣い程よい、充分あるに越したことはないがよく農學校を參觀に行くとは何處の桑園も草のない桑園は珍らしい  
必ずと云つてよい位桑園が草園である。其の案内教師の説明に忙しくて手が廻り兼ねるの、實習をやる暇がないと言  
ふのがきまり文句である。忙しいの、暇がないのといふならば農家はどうする。一体學校位暇のある處はない、手の多  
い處はない、一組の生徒で一時間も實習すれば二反歩や三反歩の除草は雑作もない、養蠶の担任教員として桑園に草を  
生やして置く程見苦しい事は無い。桑園に草を生やす様な教員には蠶室の整頓も出来ない、立派な蠶も飼へない、うま  
い教授も出来ない、生徒に充分の農業精神も植ゑ付け得られない。たとへ桑園としては少くとも學校の空地や建物の間  
を利用して桑を植ゑても一反歩やそこの桑が得られる。どこの學校へ行つて見ても必らず空地が多く利用されて居ら  
ぬ。此の空地を貰つて桑を植ゑたなら養蠶をやる上に於ても都合よく、のみならず桑の入手をするので學校の隅々迄草を  
生やして置かないで一舉兩得と云ふものだ。農業に關する學校で校庭や建物の間に草を生やして居る處位見苦しいもの  
は無い。こういう場所に草のあるのは、農家の屋敷に草のあるのと同じ變りはない、屋敷に草のある様な家の田畑や農  
作物は聞かぬでも大体の推察が出来よう、次に一坪の桑園を持たなくとも充分に生徒に養蠶實習を教へることが出来る  
それは生徒に暑申休暇を利用して、二蛾位宛與へて家庭實習をさせることだ。農家の子弟だから大部分は桑がある、無  
いものは親戚や近所より貰つて飼はせる、二十株もあれば充分だから何處の家でもそう面倒でない、よし面倒としても  
親として子供の教育であると見たならば、是れ位の事は曲げては助力すべきだ、その實習精神を養つただけでも充分の  
價值はあるものと思ふ。生徒に聞いて見ても學校でやる數回の養蠶實習よりは一回の家庭實習の方が有効だつたと云つ  
て居る。四六時中自分のものだと云ふ動物愛護の精神より飼育するのだから蠶より放れない、従つて経過や虫質は一回  
で充分納得してしまうのである。そして九月の新學期に皆の産繭品評會をやつて見せると其處に汗の結晶が報いられて

精神的に大いに蠶業教育が出来るのである。私も蠶室一つなくとも桑園一坪なくとも農學校の卒業生として蠶業に對し恥しからぬ者を出し得るとの確信を持つたことがある。一休單に養蠶實習ばかりでない、凡て學校は學校の實習にあまり捉はれ過ぎて居る。もつと集約的に實際的に經營して居る自家の經濟の下で實習をさせる方が、學校あたりの放漫な經濟の下で實習をやらせるより、蠶業と云ふものの効果が大い様な氣がする、蠶學は學校で教へられても蠶業は學校では教へる事が六ヶ敷しいものである。

#### 四、蠶業教育と教材

學校の性質によつて蠶業に關する教授要項も大部異つて居る様だ。勿論蠶業學校では蠶業を種々の科目に分つて詳細に説いて居る。農學校の蠶學は簡單に一冊の教科書で桑のことから製糸のことまで一通り説いてある。勿論教科書は簡單のものより詳細のものがよいが蠶業學校を出た者と農學校を出たものとの蠶業に對してどれだけの徑庭があらうか。私は疑はずには居られない、何も蠶業を澤山の科目に分けて専門學校でやる様に詳しく述べないでもよいと思ふ。反つて蠶業教科書と云つて一冊で何もかも纏めてあるものは本當に大切な事のみを選択してあるから、此の根本の原理を納得さして置いて後は應用のきく頭を作つて置けば何もそう深くやらなくともよいではなからうかと思ふ。

一休蠶業ばかりでない、今日の農業の科目は多過ぎる、多過ぎて無駄な時間を空費して居る感じがある。文部省でも中學、女學校の學科をなるべく綜合して少くしその精のみを書いた教科書を使はしめ、時間を捻出して此の時間を作業科に充てたい計畫とか聞く。植物、動物、礦物、生理の如きも綜合して博物教科書とし、物理、化學、氣象、地文の如きも理科として纏めるとの事だ。私も大賛成である、西洋では農業に關する學科を單にPrinciple of agricultureと云ふ一冊の本で説いて居るとの事だ。是れで結構と思つて居る。その根本のみを納得せしめて置いて、他はその研究が出来る様に導いてあれば充分である。何も學校でなければ學問が出来ないのでもないのだからそう一から十まで考へ込まうとする必要は毛頭も無い。必要ありと云ふ人は丁度老人が孫の面倒を見る様なもので、反つて年寄りの手で育つた子供は

悪くなつてしまうことの知らぬ人である。世には是れを老婆心と云つて居る。詳しい事を教はるより、卒業後研究の出来る頭を作つてやるが必要でお互専門學校で教はつたノートを唯一無二の教科書として居る者も少なからう。専門學校で各々其要點を教へられ手ほどきをして置いて貰つたればこそ、それを土臺として参考書を研究して行けるのだ、それで充分なのだ、それだけ出来れば結構なのだ。故に蠶業を一週二時間で一學年間に講義し終るものも一週五六時間で三ケ年も講義するものとその結果に於て如何程の差異あるか疑はずには居られない。

次に只に蠶業ばかりでない、何處の學校でも自分の擔任科目の時間の減されるのが、大變嫌がる、中には自分の科目を軽く見たとか自分の科目の權威でも侵された様な感情を以て衝る人がある。私は是れ位愚の骨頂はないと思ふ。少ない時間に要點のみを講義出来る位優良教員はないと思ふ。長い時間枝葉に亘る長談議よりはどの位生徒にも解り、時間も經濟的であるか知れないと思ふ。それを嫌がる人はあまりに時間數に捉はれた人と云ひ得る、何時間なければ講義が出来ぬなどと云ふ事は自分の頭のない証據だ。恰も頭が機械化して居る。一週二時間で一ケ年に蠶業全般も出来るのだから、つまらぬ時間數のみに捉はれて蠶業教育を誤らぬ様注意すべきものである。一休澤山の時間を掛けなければ蠶業の講義が出来ぬ様な人は、あまりに正直過ぎるのだ。ある農學校で養蠶の授業參觀した事があるが、蠶の品種の處で日本種の又昔の虫質はどうの糸質はこうのと標本繭を持つて來て仲々詳しく教へて居られた、何でもあんな進み方なら蠶の品種を教へるだけで五六時間はかゝる、一週二時間宛の學校なら三週間は必要だ、私は折角だが此の地方で、此の學校で蠶の品種を説くのは二十分か三十分でよからう、全く無駄な時間を費して居るではあるまいかと思つた。勿論生徒の中には蠶種製造家の子供も一人や二人は居るかも知れぬが他の大部分の子供は普通養蠶家の子供だから純粹種よりも日一號×支四號の如きこの家でも飼ふ様な品種に就てその原種の性質と、一代雜種の性質とをごく簡単に説いて、他は教科書に出て居つたら讀んで置くだけでよい。教科書になかつたら單に品種名位書いて教へて置けばよい。教場で細かに教へるよりは必要に應じて調査の出来る様に、その力の養成に意を注いで行くことが大切である。どうせ卒業証書と引

き換へに忘れることだから。又よく見るのだが桑の害虫の處で尺蠖の体長は何寸何分の経過習性はどの、ひめぞう虫とはこののと、その害虫の居らない時期に丁寧に説明されて居る、こう云ふものはいくら教場で説明されても解るものではない、それよりもそれ等の出る時期に畑につれて行つて此の害虫は何と云ふ虫だと教へれば一瞬にして納得出来る。教科書は編輯の都合上順序に書き並べられてあるが、何もその通りの順序を追はなくともよい、桑はむしが出たらそれを書いてある頁を白強蠶が出たらそれの書いてある頁をやればよいのだ。何もその地方に居らない害虫は教科書では急行列車で通ればよい。その地方に居る害虫に就て充分納得せしめて置く。珍奇なものは出遭つた時に調査することの出来る力をつけるのが肝要である。何處でも其の地方に居る害虫は大抵五六種位に限られて居る。この少數の種類だけは何時何處で手にしても直ちに見分けらるゝやうにする。それで充分で生徒が卒業してから他の地方に行けば又其處に普通ある數種を直ちに覺える事が出来よう。學校で教へて置かないと卒業後は何も新に覚えぬかの様に心配するには及ばない。そう云ふ點で無駄な時間を費して居ることはなか／＼多からうと思ふ。教科書の普遍的に出来て居るのは仕方あるまいが、各々その時處に應じて取捨するのは教師の任務で自分の知つて居るだけ補足するばかりが能でない。時に思ひきつて削除するのもよいではないか。

### 五、蠶業教育と養蠶實習

恐らく學校で飼ふ養蠶方法位舊套を脱し得ないものはなからう。大抵の學校の養蠶實習の方法を見ても必ず從來の蠶桑育が主体となつて居る。そして試験的に種々の異つた飼育法をやつて居る様だ。單に學校ばかりではない、蠶業試験場あたり迄未だ蠶桑育を主体として他の飼育法を危険視して居る。そして皆申し合せた様に、その試験場の報告に特殊育試験、濕布育、函飼育、密閉育、石灰育、撒土育、云々と書かれてある。一体特殊育の意味が私には解らない。私は學校や試験場で飼つて居る從來の飼育法を指して寧ろ特殊育と云ひたい。こういふ話がある。或る時旗が風によつてヒラ／＼動いて居つた。それを見た子供の一人が旗が動いて居ると云つたら、他の一人は否風が動いて居るのだと云つて

口論した。學校や試験場で教へる普通育と特殊育とは丁度こんな關係なものではなからうか。學校で教へる養蠶實習は普通刈桑育を教へて置けば他はその應用だから、自然に納得出来るが故にこれさへやつて置けばよいと云つて居る。私も此の語調を借りて云つて見れば箱飼さへ教へて置けば普通刈桑育などはその應用だから、今教へなくとも卒業してから自然に出来るかと云ひたい。尤も普通刈桑育をやらせる先生が養蠶の講義の時に各飼育法の比較を教へるに、全芽育は桑が經濟だの函飼は勞力、桑葉が節約出来ると話して居られる。是れは甚だ矛盾した講義ではなからうかと思ふ農村疲弊の今日蠶を飼ふ事を教へるなら、一番經濟的の飼育を教へて出た方が直ぐ役立つてよい。そして其の後普通刈桑育を練習して見ても遅くは無い。どうせ桑や勞力に於て損な飼育法だから、急いで練習して見る必要もない。暇を見てやつて見る位で丁度よからうと思ふ。又先生は函飼なんて危険な飼育法を教へる必要が無いと思ふと云ふかも知れぬが私は又此の危険の字句に普通刈桑育と函飼とどちらがよく當て兼ねるか疑はずには居られない。寧ろ函飼に少く、普通刈桑育に甚だ多くの選蠶を聞きはしないか。函飼が格別六ヶ敷い飼育法なら又別問題だが、初めて學校に入つて養蠶實習を教へる生徒には普通刈桑育も函飼も同じいではないか。同じとしたならば在學中に凡ての點に於て經濟的の飼育法を基礎的に教へて置く方がよいではなからうか。何も舊套に捉はれて時代から遅れる必要はなからう。日進月歩と云ふ世の中に兎角ウトイと云はれる教師は昔教へた事を金科玉條として教へて得意になり勝である。そういう事ではいかぬのは言を俟たぬが自分だけ遅れて居るのなら未だよいが、それが直ちに生徒に及ぼし暫に迂遠なことを授けると云ふだけに止まらず、新しい時代に活躍すべき生徒迄陳腐の卷きぞへにつれ込むとは又以て如何なるものであらうか。大に考慮の余地ありと思ふ。

## 六、蠶業教育と實習精神

農學校の教員の中で一番割の悪いのは實習擔任の教員だ。實習擔任の中でも養蠶擔任教員位馬鹿らしい者はない。私も教員を初めた當初實にこんな事を考へた事もあつた、何しろ普通擔任の教員は授業が濟めばさつさと家へ歸つて遊んで

居るのに、實習擔任の教員はいつも田畑に出て暑い日も寒い日も日曜も暑中休暇にも休まずに働かなければならぬ特に養蠶實習教員は夜も十一時だの三時だのと云ふ夜中に起きて眠い眼をした生徒を鞭撻しながら給桑もせねばならぬ。こんな宿りが二日も續くと頭がぼおつとして正氣が失はれる、養蠶の三期も續いてやれば壽命が短くなると云つて可成不平つたこともあつた。然し今更不平を云つたつて追ひつかない。それよりも因縁と思つて諦むる方が増した。諦められぬ者は辭職をして早く職業更へをするより方法がない。不平を云つてもどうせ蠶を飼はねば濟まぬ事だ。反つて校長や他の職員の場合を害するだけ損だ。何も因縁と思つて働くに如くはない。一体自分を他と比較するからよくない。比較する氣のある人はたとへ如何なる位置を得たにせよ又其の上の位置と比較するから限りがない、満足がない、いつも斯ふ云ふ人は不平を云ふ人だと思ふ。生れた時に社會が既に成立して居り、両親を初めとして切つても切れぬ縁者の間柄となつて居る。親父は喧しいからうと云つても、隣りの伯父さんはよい人だと言つても、親父と伯父さんを取り替へる譯けには行かぬ。生れ落ちるから嫌應なしに運命づけられて居るのだ。是は諦めと云ふよりも覺悟を定めねばならぬ、私は更に單に諦めだけでは物足りぬ、もう一步進んで是れに携はる事の出來たのに感謝の念を懐かしめたいのだ。諦めだけなら消極的自覺だが、感謝の念を以てする様になれば是れば積極的自覺と云ふもので、感謝の念を以て養蠶に當らば如何なる苦勞も苦勞と思はれず、動物愛護の精神が自ら湧き出で蠶の顔を見なければ飯も甘く戴けないと云ふ様な醇美なる實習精神が養はれてくるのである。教員にして此の實習精神あらば、生徒は自らその精神に感化されて、必ず感謝の念を以て養蠶に従事し單に飼育の技術を得る許りでなく所謂農民精神の涵養も出來望外の收穫が得らるゝのである。此の親にして此の子あり。此の教員にして此の生徒あり、宜しく積極的自覺によりて先づ自己の蠶業精神を作り引いて生徒の蠶業精神を作るのが蠶業教育の方法ではなからうか。

尙此處で述べたい事は作物を栽培し、家畜を飼ふには愛すると云ふ心情が根本で此の心が教育の主旨であると云つてよい。特に養蠶には此の動物愛護の精神が必要だ。農業趣味を養ひ、農村生活を理解するのは、要するに茲にあつて技能

や智識を授くるのが決して主眼ではない。たゞ蠶座面積は幾坪にせよとか、桑園の肥料は反當何貫久施さねばならぬと云ふことのみを教へるでは到底この教育の目的を遂げて眞の心を養ふ事は出来ない。故に蠶業の教員であつても桑の木を大切に可愛がる様に、庭木を大切にすることを教へ、病害がついたら他の職員と手傳つて駆除に努め、蠶を愛する心を以て鶏や豚を愛し飼育管理をする様訓育せば生徒は自ら其の間に人格を磨き品性を陶冶することが出来る。蠶室で蠶を見る心が鶏に對して起り、桑園で桑を見る心が庭木に對して起らぬ様では利己主義とでも云ふべきであらう。勘定と義務だけの心掛けでは決して優良な養蠶教員とは云へぬ。

此處で是非言かねばならぬことは養蠶實習の教員が生徒に桑園實習をやらせて居るのに、自分はスリツパを穿ち立派な服を着て煙草を吹かせ、腕組みをして生徒の監督をして居るのをよく見ることがある。誠にこう云ふ教員を見ると氣の毒になつて話を聞く氣になれぬ。こう云ふ教員の教へを受ける生徒が可愛想で見て居られぬ、こう云ふ教員では到底農業教育が出来そうもない、出来ない許りか農業教育の精神をぶち壊してしまふ。

話は余談だが本郷定次郎といふ人がある、この人は育兒踰屋園といふ孤兒院を起し、孤兒を助けるために働いた有名な人であるが其の初氏が未だ逋信省に出勤しながら、五六人の孤兒に靴磨をさせて居つた頃何分遊盛りの子供のこととて特に是れ迄の育も左程宜しくないものが多いので、一向本氣で仕事などする子供はなく、唯腰辨當で終日遊んで歩き偶々一錢か二錢儲れば、直ぐに買喰ひしてしまふと云ふ有様で氏もこれには大に閉口して居つたが、其の頃一夜聞くともなしに子供等の寝物語を聞いて居ると「お前大きくなつたら何になる」「お父様は官員さんでえらいけれど、おれ達は靴磨でつまらないからおれも大きくなつたら官員さんになりたいなあ」と此様に言ふて居る子供があつた。之を聞いて居つた本郷氏の胸の中は突然雷に撃たれた様な感じがしたそうである。嗚呼私が悪かつた、悪かつた、自分は洋服を着て悠々とお役所に出て居りながら、子供には筒袖を着せ、刷毛を持たせて靴磨に出すといふことは、どうしてこれが同情ある孤兒の養育法であらうぞ」と、其の翌朝すぐに逋信省に辞表を出して其れ以來は自分でも筒袖を着て「半靴五厘、長

靴一錢」と大書した笠を冠り、子供と一緒に「靴磨く」と呼はつて東京市中を歩いたが、それからといふものは頑足ない子供達迄も深く氏の至誠に感心したものと見え稼ぐこともよく稼ぎ言ひ付けることもよく聽いて大層教育がしよくなつたといふことである。實習に當つて私は、此の本郷氏の如き心持ちになつて教育して見たい、此の心持がなくては眞の實習精神は養はれぬ、特に養蠶實習の如き夜も晝も無いきつい實習には特に此の心掛が必要だ。教員が桑園より足を遠ざけ或は蠶室より放れて居る時は、生徒の心も同じように桑園より足が浮き、或は蠶室より庭球に心が向いて居るのに感付かねばならぬ是れでどうして眞の蠶業教育が出來ようか、凡て生徒の風紀態度は必ず教員の教育的態度の反映であつて生徒の悪風を叱るよりは一步先きに生徒をして斯くならしめた自己を省みなければならぬ。

此の項も大部長くなつたが吾々養蠶實習をやる教員として最も大切なものであるから序でもう少し書かして貰ふ。皆さんがあの暑い夏に於て夏蠶や秋蠶の實習を汗みどろになつてやつて居られる時に、實習に關係のない先生方が宿直室で碁を圍み大笑をしながら烏鶯を争つて余念がないのを見又生徒が實習をして居るのに自分の擔任は無いからと云つてテニスに夢中になつて居られるのを見た時に如何なる感を起されるであらう。修養の積まれた方ならいざ知らず、恐らく大抵の方は必ずそこに不快を感じらるゝに違ひないと思ふ。此の感が貴い教訓である。兎角養蠶實習のない時に農業の先生が夕刻迄脚絆をはいて働いて居るのに自分は夏の間充分働いたのだから他人が今いくら働かうと一向關係はない。放課になつたら早くテニスもやらう碁も圍もうなどと云ふ様なことを云ひたがるものである。一寸考へると尤もだがこう云ふ教諭は失禮ながら半人前の教員だ、教諭の教のみを完うし諭すことの出來ぬ人であるからだ、自分のテニスをして居るのを田の中や畑の中で實習をして居る生徒が見た時に如何なる教化が及ぼすかを考へねばならぬ、凡て何事をするにも自分の都合や好きのみに働かされずに、先づ此の行動を自分がとればそれは生徒に如何に響くかを考へて然る後に何事もするのが眞の教育であつて又教員の心掛くべき事柄である。田植の時に普通作擔任教員が泥まびれになつて働いて居つたら、いくら養蠶擔任でも敢て水内に入らずとも何か手傳つてやるだけの心掛けがなくてはならぬ。農業

擔任の先生が骨折つて居る時に、生徒が一生懸命實習して居る時に、之を横目に見ながらテニスをやつたり、碁を戦はして居るなどは、實に怪しからぬ態度で以ての外の心得違ひである。かゝる同情なきものは農學校の教師たるの資格なきのみならず、農村に住むべき價値のない者と言はねばならぬ。どうしてこんな心持で實習精神を涵養せしむる事が出来ようか。養蠶をして居る時のみ實習精神は養はれるものではない、蠶のない時でも常に此の精神を養ふべき機會はあり責任はあるのだ。蠶業學校の一員として職を奉ずる者は苟にも農業精神に戻る様な行動はしないと共に生徒をして絶えず此の心を養はしむることが、英語や數學を百點とらしむるのに優るものだと云ふ事を忘れてはならぬ。

X X X X X X X

以上くだらぬ事を大部長らく書きまして紙面を汚しました、頭に浮いたことを順序もなく、秩序もなく亂雑に書いたに過ぎません。然し私の蠶業教育に對する考のプリンスブルが那邊にあるかを一考して戴きたい。勿論紙面の都合もあり充分にその意を述ぶることも出来なく且つ以て生れた筆不精の私とて皆様に御解り下さるや否やを疑つて居るものです。幸に御諒察下さるれば幸甚と思ふのです。

### 懷 想 錄

#### 東寮三號村會の思出

い の し し

誰れからかは知らないが何か書け書けと度々云はれた様に思ふ、同窓會の方でも校友會の方でもどちらへでもよいからと聞いた。學校外の雜誌や學會に少しは報告を書く癖に學校へは何にも書かぬと云ふ事があるかッ！と少しおど